

南アルプス市立櫛形中学校 学校関係者評価書

南アルプス市立櫛形中学校関係者評価委員会	令和5年1月23日(月)作成
<p>第3回学校関係者評価委員会</p> <p>実施日：令和5年1月20日（金）午後3時00分～4時00分</p> <p>会 場：南アルプス市立櫛形中学校 校長室</p> <p>参加者：学校関係者評価委員</p> <p>【学校評議員】 相原千里 横小路淳一 渡邊寿子 梅本澄雄 河野木綿子 中込和彦</p> <p>【PTA関係】 山本樹里（前会長） 川西祐香（会長）</p> <p>【学 校 側】 上田直人（校長） 矢吹和信（教頭） 吉原仁実（教頭）</p>	
<p>学校関係者評価委員会 協議内容</p> <p>(1) 自己評価書について</p> <p>① 教職員の自己評価、生徒及び保護者のアンケートの結果について</p> <p>② 今後の方針(改善策)について</p> <p>(2) 学校関係者評価委員からのご意見</p>	
<p>《学校関係者評価委員の意見の集約》</p> <p>I 学校教育目標・学校経営について</p> <p>・「働き方改革」につながる完全下校時刻の繰り上げ、テスト日を2日にすることで放課後の時間帯の保障、清掃日の削減や清掃方法の工夫（試行的にモップ利用）を取り入れたことは、非常に評価できる。職員が楽しく元気で働くことが最も子どものためになるので、来年度も一歩前を目指し頑張りたい。</p> <p>・今後、学校の清掃なども外部委託をする時代が変わっていくかもしれないが、生み出された時間を教員が子どもたちと対話するなど子どもを中心に据えた教育活動を進めてほしい。校長の学校経営方針を浸透させることで、保護者・地域・市教委も協力してくれると思う。</p> <p>・職員の個性を大事にしながら校長がリーダーシップをとっているので、職員が一丸となって学校運営に参画できている。学校だよりの内容から適切な教育活動が行われ、よい学校経営をしていることが伝わってくる。今後も、自信をもって学校経営をしてほしい。</p> <p>・自己評価資料に去年との比較（経年経過）を提示するようお願いしたい。</p> <p>II 学習指導について</p> <p>・3年生「総合的な学習の時間」の授業内容はレポート発表であったが、中学生の頃から、自分の研究テーマを自分なりの考察をしながら述べていく授業は、今の時代に求められている素晴らしい活動であるので、今後もこのような授業を進めてほしい。</p> <p>・子どもたちが仲間の前で積極的に発言できるためには、仲間同士が認め合っている素地や、やればできるという自己肯定感が育まれていなければならない。櫛形中は子どもたちが「スリンプルプログ</p>	

ラム」に取り組み、仲間と心を通わせ、自分の居場所が教室にあると感じている。このような取り組みはとても良い。

・生徒は自分の考えを追求する際 ICT 機器や Web 上の情報を取り入れ、さらに教師のアドバイスを受け止めながら発表に至っている。子どもが授業の中で得た多くの情報や知識をどうやって使うのか、子どもの相談に乗りながら整理している教師の指導過程が素晴らしい。

Ⅲ 生徒指導について

・アンケートから 90%以上の子どもが「学校が楽しい」と回答していることは素晴らしいことであるが、一方でそこに入れなない生徒もいる。悩みを抱えている生徒や不登校、別室登校の生徒への支援は大変であろうが、中学校は授業や部活動などで多くの教員が生徒に関わることから、今後も生徒の特性や状況をしっかり情報共有し、支援を行ってほしい。また、小学校から中学校への入学の際も、その子にとって必要な情報共有を洩れのないよう引き継いでほしい。子ども一人一人を大切にしたい教師の思いをもとに、どのように支援していくのかという手立てを検討し実践してもらえるとありがたい。

・今は秘匿性の高い情報が非常に多く、そのため若い教員は一人で情報を抱え込みやすい。楡形中のように生徒指導部会・生徒支援部会において組織立った情報共有をし、個別の案件を複数の教員で丁寧に対応していこうとする体制が大切であり、さらに外部機関と連携していくことも必要である。

Ⅳ 保護者・地域との連携について

・女子の制服にスラックスの導入をしたことに代表されるように、楡形中が多様性を理解してくれてうれしく思うとともに感謝している。また、テレビや新聞でキャッチフレーズ「Aim High」や、生徒の活動について目にする。今後とも良いことは保護者・地域・外部に発信してもらうことで、子どもが学校を好きになり、さらにそのことが子どものためにもなるので、積極的に広報活動をお願いしたい。

・学校は子どもたちのために様々な取り組みをしてくれている。保護者もそれが分かっているから学校にお任せしている部分もあるが、PTA 会長を経験して、保護者の考えを責任ある意見として学校に伝えることはとても大切なことであると実感した。

Ⅴ 学校の特色について

・昨年度から楡形中学校区の小中一貫教育が始まったがこれから先どういう方向に進んでいくのか教えてほしい。

校長（回答）：今後 2～3 年かけて市として学校運営協議会を立ち上げてコミュニティスクールに移行していく方向である。学校長の経営方針や教育目標を協議・了承してもらって学校運営協議会を通して地域の方のご協力をいただくという形になっていく。今とあまり変わらない点が多いが、より地域の方の協力を得やすくなる方向になる。

・近年、幼保小の連携も強調されているが、義務教育 9 年間の中で「主体的・対話的で、深い学び」

の実現をお願いしたい。9年間の一貫した教育方針のもと、楡形地区小中で学校を作り上げ、地域でも子どもを育てていきたい。そのためにも今後、学校・保護者・地域が意見を出しあい、育てたい青年像を目指して協働していくことが必要で、その結果ますます子どもたちにとって生活しやすい地域になるはずである。

・コロナ禍で行事の縮小や制限が続いているが、2年生の泊を伴うスキー教室（1月18・19日）ができたことは本当に良かった。学校での生徒同士の人間関係と泊を伴う時の人間関係は違い、子どもにとって学びも多く、よい経験ができたと思う。行事は子どもにとってはかけがえのない青春の1ページなので、来年度、修学旅行を成功させてほしいと切に願っている。

・授業参観で各教室を回らせてもらった際、全校合唱の「ハレルヤ」が掲示されていた。それを見て大変うれしくなった。また、若い先生方が多いので、コミュニティの応援は絶対必要となってくることから地域との連携をますます深めてほしい。小中一貫教育の中で地域の教育力が大事になってくる。

記載責任者：楡形中学校 学校関係者評価委員会
事務局